

[付言として]

本会議としては、この答申において示した基本的な考え方や施策の柱立てが、社会教育計画の策定を通して具体化につながることを切望するところです。特に、VIIで述べた具体的課題が社会教育計画の中で着実に施策化されていくことを要望するものです。

そこで、その施策化に当たって、京都の特性を生かす観点から、学校を拠点として生涯学習・生涯教育施策の展開を図ることを検討の課題の一つに含められるよう付言したいと思います。

京都の特性の項でも触れましたが、京都においては、「学校」が地域社会の中で重要な役割を果たしてきました。明治初期の番組小学校の創設当時の学校は、地域のコミュニティ・センター、教育・文化の中心として地域の生活と密接な関わりを持っていました。そのころの学校の様子は、福沢諭吉の（24）
「京都学校の記」にも生き生きと描かれています。

京都の「学校」の持つ地域社会での核としての機能は、もちろん、その後の学校を取り巻く状況や社会の変化の中で変容してきていますが、番組小学校が創設された元学区だけで

なく、児童の急増期に市内周辺部に新設された学校の学区においても、住民の地域生活や自治活動がその学区を基盤として営まれているように、京都全体の伝統として根づいています。

もちろん、学校は、本来、学校教育のための施設であり、子どもたちの知・徳・体にわたって十分な教育機能を持つものとして存在することが必要です。

このことを前提として、生涯学習・生涯教育がどうしても必要とされるこれからの中時代にあって、京都の特性と伝統を踏まえ、地域生活と密接な関わりのある学校を学校教育活動に支障を来たさないよう十分に配慮しながら、社会教育も含めた生涯学習・生涯教育の拠点と考えることによって、全体として学校教育の充実にも役立ち、地域生活の一環としての社会教育の発展にも役立つ施策を進めることが求められます。

この場合、子どもたちの学校という観点からしても、地域全体のコンセンサスを得られるものでなければなりません。地域の子どもたちの教育を一層充実させるにはどうすればいいのかという観点から学校の在り方を検討したうえで、必要な条件整備も行いながら、学校教育と社会教育の連携を深め、社会教育と地域社会との関わりを一層密接にすることを目指

すことが必要です。

2年後に、京都市は、市政100周年とともに、番組小学校にはじまる学校教育120周年、さらに、7年後には建都1200年、14年後には21世紀を迎えます。こうした歴史の節目に当たって、21世紀に向けて、本市の「平和都市宣言」や「世界文化自由都市宣言」を踏まえ、都市としての京都の発展を考えていく必要に迫られています。

[はじめに]でも述べたように、21世紀に向けて学術・文化の都市としての京都の一層の発展を図るためにには、その土台を作り出す教育の充実が大きな課題となります。そこで、京都の特性である学校と地域の歴史と伝統に育くまれた結び付きを生涯学習・生涯教育の面で生かすことによって、京都の教育の発展を図ることを今後の施策化に当たっての方策の一つとして検討されるよう付言するものです。